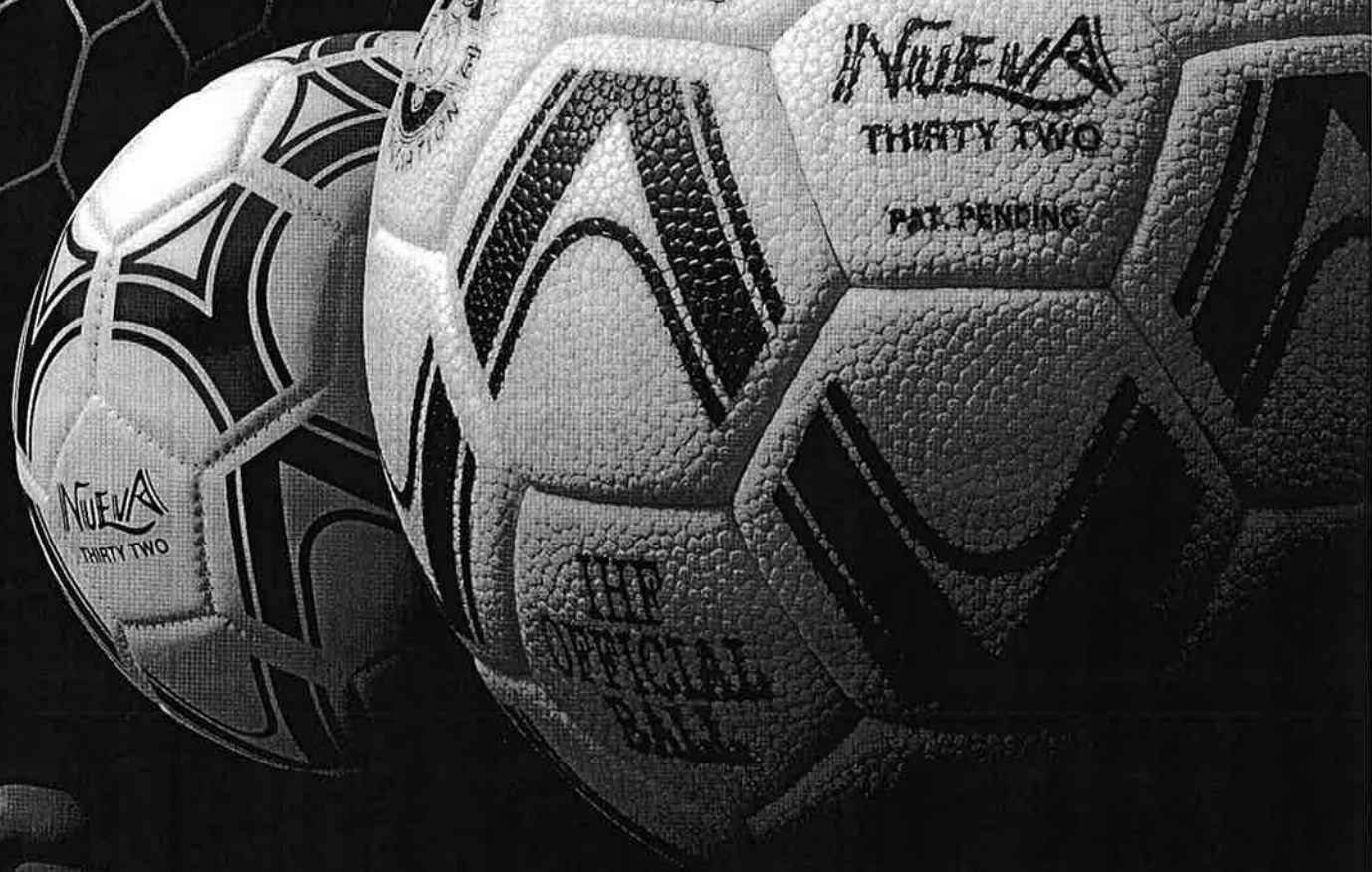


molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ  検定球
軽い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ  検定球
軽い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

世界に通用する ハンドボールを目指して



(財)日本ハンドボール協会副会長 多田 博

5月6日に開催された日本対韓国の試合を観戦いたしました。

女子は白熱した好ゲームで最後までチームワークを崩さず基本的に忠実なプレーで総合力を発揮した日本の勝利となりましたが、残念ながら男子は個人技と総合力に勝る韓国チームに完敗でした。その結果、韓国との対戦成績は、男子43戦12勝29敗2分、女子44戦5勝38敗1分となりました。

試合前に山下副会長から「ライバルというのは勝ったり負けたりする間柄で、韓国をライバルというのは少しおかしいのではないか」との話まであったことを考えると、今回の女子の勝利は“歴史的快挙”とも言え、次期ロンドンオリンピックへ向けての貴重な第一歩と考えられます。

一方、男子は序盤こそ競り合ったものの、選手諸君の頑張りもむなしく大敗し、体力的・技術的な実力差が浮き彫りになりました。ただ、若手プレーヤーの可能性が垣間見られたことは、次の目標への収穫でした。

さて、今現在、日本のハンドボールは世界に通用するとは言えません。アジアの中においてさえ常に上位グループにいるわけでもありません。

現状では、極めて一部の選手の能力やキャラクターが賞賛されることはあっても、ハンドボール全体が国民に広く受け入れられているわけではありません。世界大会、オリンピック等の国際試合において日本チームが大活躍することを、日本のハンドボール関係者、ハンドボールファン、皆が待ち望んでいます。それは、日本代表チームが活躍すれば日本のハンドボールの普及、発展さらにサポーターの拡大につながることを皆が知っているからです。もちろん、日本協会関係者も十分自覚しています。すなわち、日本代表チームが国際的に活躍すれば、普及の面でも、マーケティングの面でも、選手の待遇面でも、その他色々な面で、今とは大きく変化することでしょう。

ハンドボールに関係している我々は、ハンドボールが観戦して本当に面白く、自分でプレーするとともに楽しいことを知っていますが、世間的にはまだそこまで認知されていません。他の人気あるスポーツとは受け入れの度合いが違います。この課題を解決するには、日本のハンドボールが世界に通用する実力をつけることです。国を代表する選手達で争われる国際試合で勝ってゆかねばなりません。

そのために、日本ハンドボール協会は何をなすべきかが大きな課題です。川上専務理事の「協会の全知全能総力をもって、ナショナルチームの強化に力を注ぐ」との提言は、まさにその答えだと考えます。日本協会をはじめ日本ハンドボール界全体が一致団結して、ベクトルをその方向に合わせると、色々な課題がハッキリ見えてくるでしょう。すなわち、ハンドボール協会の各本部や委員会が、最終的に選手強化につながる方向で、それぞれの役割を果たす必要があります。

ところで、これからの2年は、何としてもロンドンオリンピックの出場権を取得することが第一目標でしょう。

もちろん、代表選手諸君一人ひとりが心・技・体を鍛え、また監督が選手個人の力を最大限発揮させ、日本独自の強靱なチーム力を引き出すことがオリンピック出場には一番重要です。同時に、ハンドボール協会が強化という命題達成に向けて、それぞれの部門で問題点を一つ一つ解決し、全員一丸となり一体感を持って対応することが重要だと感じています。

一方、選手諸君は日本の代表であるという強い自覚と責任感を感じて欲しいと思います。日本のハンドボール界の頂点に立つ者のみが代表選手として選ばれており、ハンドボールに関係する人もしない人も皆、選手の一挙一動を見守っています。オリンピック出場という大きな目標を達成した時に賞賛されるのは、選手であり、監督です。私達協会役員は、この目標が達成され、皆と一緒に喜べるように精一杯支援してまいります。

私は、日本ハンドボール協会の一員として、日本のハンドボールを世界に通用する段階にレベルアップさせるべく、皆様と一緒に尽力する所存です。

今後ともよろしく願いいたします。

平成20年度 第4回 春の全国中学生 ハンドボール 選手権大会



写真提供…スポーツイベント社

最終順位

■男子

- 優勝 はとり（愛知）
- 準優勝 神埼（佐賀）
- 第3位 玉名（熊本）
- 第3位 ヴァルト岐阜（岐阜）

■女子

- 優勝 神森（沖縄）
- 準優勝 氷見北部（富山）
- 第3位 光陽（福井）
- 第3位 原川（大分）

平成20年度第4回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を振り返り

氷見市実行委員会事務局次長 伊勢利弘

本大会は、青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを目的として平成17年度を初年度として10年間氷見市で開催するものです。

初年度は、全国46都道府県から男女計92チームが参加し、第2回大会では、男子は46都道府県（青森県不出場）から47チーム、女子は44都道府県（青森県、宮城県、徳島県不出場）から45チーム、男女計92チームが参加し、第3回大会では、男子は46都道府県（島根県不出場）から47チーム、女子は45都道府県（青森県、島根県不出場）から46チーム、女子1チーム増の男女計93チームが参加して行われました。第4回大会では、男子は45都道府県（新潟県、島根県不出場）から46チーム、女子は44都道府県（青森県、山形県、島根県不出場）から45チーム、男女計91チームが参加して行われ、前回同様中学生が参加する全国スポーツ大会としては、最大規模の大会を開催することができました。

第3回大会から優勝チームに総務大臣杯が授与されるようになって、スポーツの振興だけでなく、地域の活性化に向けた努力がますます求められるようになってきました。

今大会は3月下旬には珍しく雪がちらつく中で行われまし

たが、全ての面で順調で、各チームが熱戦を展開し、特に地元の女子氷見北部中学校が準優勝して、大いに盛り上がり、予定通り終えることができました。

第3回大会から、大会前からも練習や交流試合会場を提供するようになって、本年度は特に一生懸命取り組んでみましたので、参加チームにたいへん好評でした。会場の提供や世話をいただいた関係各位に、感謝しています。

そのほか、大会期間中長期滞在の疲れ等で体調を崩す選手がいたり、試合でけがをしたりした選手もいましたが、宿舍の皆様や医療機関、サポーターの皆様方の献身的なご支援により無事帰郷されました。

本大会を開催するに当たり、全国から訪れる人々を温かく迎え、また選手が安心してプレーが出来るよう、市内各地区から応援担当サポーターの協力をいただき、チームや保護者とのさまざまな交流を図りました。応援サポーターがチームの実情を知って、回を重ねるごとに適切なサポートができるようになってきたように感じました。加えて、市内小学生で構成する「ふるさとのびのびクラブ」の作品発表もあり、氷見市の魅力を全国に発信しようとした当初の目的は達成できました。



※2008年7月北海道洞爺湖サミット国際メディアセンター前で撮影。積水ハウス関東工場のゼロエミッションセンターに移設されました。同時に経済産業省指定の「茨城県 次世代エネルギーパーク」として一般公開されています。

北海道洞爺湖サミットに建てた「家」、

ゼロエミッションハウス

積水ハウスは、CO2排出量をほぼゼロにする住宅の販売を開始しております。地球と家族を守る家、「CO2オフの暮らし」、始めませんか。

省エネ + 創エネ = CO2オフ住宅

高断熱・気密仕様 燃料電池
省エネ設備機器 太陽光発電システム

一戸建て・共同住宅・クラブハウスのご建築は、当社にお任せ下さい。

積水ハウス株式会社

川崎支店 玉川・溝口展示場

担当:早川 祐侍

TEL:044-829-4611

FAX:044-814-5411

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口5-24-5 (玉川・溝口ハウジングステージ内)

E-mailアドレス: hayakawa019@sekisuihouse.co.jp 公式ホームページ http://www.sekisuihouse.co.jp

ECO FIRST 環境省認定 エコ・ファースト企業

国土交通大臣免許(13)第540号 国土交通大臣許可(特-17)第5295号

SEKISUI HOUSE

男子優勝チーム はとり中学校 (愛知県)

はとり中学校ハンドボール部主将 鬼頭篤史

平成 21 年 3 月 25 日から 29 日まで富山県氷見市で行われた「第 4 回春の全国中学生ハンドボール大会」で優勝することができとてもうれしく思います。

ぼくたちのチームは「先輩を超える！」という目標のもと日々の練習に取り組んできました。名古屋市の大会では順調に勝ち進んでいったものの準決勝で負けてしまいました。しかし、この負けをきっかけに僕たちのハンドボールにかける思いが強まり、どんなに厳しい練習にも立ち向かっていきました。そして、その思いがついに実り、春の全国大会への出場を決めることができました。

出場が決まったぼくたちにはまた新しい目標ができました。「全国大会ベスト 4！」を目指し、二月の初めには全国大会に出場するチームと練習試合を行い、チーム全体の技術やチームワークを強化しました。また、大会直前には去年の先輩方が練習相手をしてくださり、そのおかげでチームの能力をアップさせることができました。

ぼくたちがこの大会で、自信があったことは体力では絶対に負けないということです。練習中倒れそうになりながらも足を引きずりがんばりました。それがこの優勝という結果に結びついたと思います。優勝した瞬間は今までの苦しさも忘

れ、うれし涙がこみあげてきました。ぼくは日本一になり、ハンドボールにかける情熱は今まで以上になりました。そして、ますますハンドボールを楽しむことができるようになりました。

これも指導して下さった監督、コーチのおかげです。いつもぼくたちを支えてくれる保護者の力強い応援、協力があり成しえたことだと思い、とても感謝しています。これからは今大会の経験をいかし「もう一度日本一」を目指します。



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

女子優勝チーム 神森中学校 (沖縄県)

神森中学校女子ハンドボール部主将 稲福麻里

私たちは、3月25日から29日までの5日富山県で開催された春の全国大会に出場しました。昨年の夏の全国大会では1回戦敗退という結果に終わったので、この大会のため

にどれだけ走りこんできたか…きつさに耐えきれず、泣き出した人や、気分が悪くなった人など、自分たちにとっては想像以上の練習でした。しかし、この厳しい練習を頑張れたのは、私たちを熱心に

指導して下さる監督やコーチ、いつも支えてくれた両親、そしてくじけそうになった時に励ましあってきた仲間がいたからです。

氷見の大会会場は、沖縄とは違う寒さや慣れない環境で戸惑いもありましたが、今回特別にトレーナーとしてついて下さった赤坂先生がいつもそばにいて、選手一人一人の体調を整えてくれました。本当に心強かったです。また、窪地区の応援サポーターの皆さんは、地元との対戦の時も、私たち沖縄を誰よりもどこのチームよりも応援してくれました。特に濱野さんは声をからしながら大きな声で私たちの名前を呼んで声援してくださいました。濱野さんありがとうございました。あと民宿「あおまさ」のおいしい料理はわすれません。こうして、私たちが全国制覇できたのは、自分たちの力だけではなく周りの方々のたくさんの支えがあったからだと思います。



写真提供：スポーツイベント社

ます。感謝。

この大会が私たち顧問の功子先生、男子顧問の周史先生にとって最後だったので、「優勝旗」をプレゼントすることができました。そして最高の形で皆さんに恩返しすることができて嬉しいです。夏もいい結果が出せるようこれからもチーム一丸となって頑張ります。最後にこれまでお世話になったみなさん本当にありがとうございました。

前神森中学校女子ハンドボール部監督(浦添市立浦添中学校)
東江功子

春の全国大会 3 度目の出場で、念願の全国制覇を達成し、大変嬉しく思います。今年も氷見市の素晴らしい取り組みに感動し、応援サポーターの方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。いつも沖縄は、窪地区の濱野さんを中心に大声援を送っていただいています。今回は 2 度も地元のチームと対戦したのに、大きな声で選手たちを励ましてくれました。

一昨年 3 位に終わり、今回はそれ以上の成績を残したいと思っていましたが、選手一人ひとりには「全国制覇」を目標にしていたようです。自分たちの力を発揮できれば優勝できると信じて一戦一戦を勝ち抜き、最終日の準決勝では、チームの心も一つになり、大きな選手を相手に果敢に攻め、チャレンジして

いく姿からはチームの成長を感じました。決勝の前には選手一人ひとりの集中した雰囲気に関心“今日はいける”と感じていました。最近、勝つ時と負ける時、苦戦する試合などはアップのときから選手の状態でいろいろ感じるがあります。実際に試合が始まって選手たちがのびのびと自分たちのプレーをしている姿に感激しました。この大会を最後に神森中を離れることになっていた私は、途中込み上げてくる涙を抑えるのに必死でした。初の神森中学校女子優勝は、最後で最高のプレゼントでした。もちろんこの優勝の陰には、トレーナーの赤坂先生、技術指導をしっかりとしてくれた主人であるコーチの存在は欠かせません。これまでたくさんの方に支えられ、応援していただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様、本当にありがとうございました。

最後に神森中学校の春夏連覇を願い、私自身も新しい学校でまた頑張りたいと思います。



戦 評

【男子】

▼準決勝

神崎 32 (16 - 11、16 - 13) 24 ヴァルト岐阜

前半、神崎は 3 番益田のシュートで先制し、5 番北島のサイドシュート、速攻シュートで 5 対 0 として勢いに乗った。ここでヴァルト岐阜はタイムアウトを取り流れを変えようとしたが、神崎の堅い守りをなかなか崩すことができない。7 分に 7 m スローで 1 点を返すものの、神崎の速攻からの速い展開についていけず 8 対 1 までリードを広げられた。その後、岐阜は 3 番望月のカットイン、6 番加藤のシュートで連続得点を重ねて追いつき、前半は 16 対 11、神崎のリードで折り返した。

後半も神崎の 3 連続得点から始まり、岐阜は 5 - 1 ディフェンスやダブルマンツォー・ディフェンスをしかけるが、神崎 5 番北島のサイドシュートを止めることができなかった。両チームとも点を積み重ねていくが、点差は縮まらず、勢いが

止まらなかった神崎が 32 対 24 で勝利を収めた。

はとり 23 (12 - 11、11 - 9) 20 玉名

前半、硬さの目立つはとりに対し、玉名は多彩なパスワークでリズムをつくり、流れを引き寄せる。一方はとりは、13 番笹川を中心に粘り強い 1 対 1 やミドルシュートなどで、前半 13 分過ぎにはリズムを取り戻し、7 対 7 の同点に持ち込んだ。その後、両チームのゴールキーパーの好セーブも光り、一進一退の攻防が続いた。はとりは、タイムアウト後、逆転に成功し、1 点リードで折り返した。

後半も、両者とも気迫のこもったシュートでシーソーゲームが続くが、後半 10 分過ぎに、11 番鬼頭、13 番笹川、14 番中島らが確実にシュートを決めたはとりが 5 点差をつけてリードした。玉名は、8 番嶋田のロングシュートや 3 番井手のカットインなどで応戦するが、玉名得意のポストプレーを封じたはとりが勝利した。

▼決勝

はとり 25 (14-9、11-11) 20 神埼

はとりのスローオフで男子決勝が始まる。先取点は神埼 3 番益田のステップシュート。対するはとりも 13 番笹川の 1 対 1 から 5 番原口がサイドシュートを決め、互角の立ち上がりを見せる。その後も両チーム加点して 10 分過ぎまで 4 対 4 の同点で共に譲らない。しかし、はとりは 12 番 GK 溝川の好守と相手のミスからの速攻で加点し、主導権を握る。一方、神埼も 18 分、19 分に 3 番益田がステップシュートをたて続けに決めて追いつくが、はとりは 14 番中島、15 番井上のポストシュートと 13 番笹川のみドルシュートで引き離し、5 点リードで前半を折り返した。

後半開始、両チーム共にミスが続く中、神埼が先に速攻につなげて得点し、追い上げムードが高まる。はとりもすぐに応戦し、13 番笹川の速攻で 6 点差とする。神埼は 4-2 ディフェンスで相手のミスを誘いにかかるが、はとりは 12 番 GK 溝川の好セーブから速攻につなぎ 1 対 1 のフェイントからのシュートで加点し、追い上げを許さない。神埼は、はとりの 13 番と 11 番にダブルマンツーマン・ディフェンスをしかけて勝負をかけるが、18 分過ぎに痛恨の退場者を出し、はとり 11 番鬼頭が 7 m スローを決めて 8 点差とする。神埼も 20 分過ぎ、相手のミスから追撃するが、前半のリードを守りきったはとりが 5 点差で初優勝を果たした。



写真提供…スポーツイベント社

【女子】

▼準決勝

氷見北部 30 (14-9、16-9) 18 原川

開始 30 秒、2 番佐藤の速攻から左サイドシュートで原川が先制する。原川はその後、立て続けに 4 番後藤の右サイドシュートなどで得点を重ねるが、氷見北部も 4 番森(彩)のカットインシュートなどで食らいつき、前半 9 分までに 5 対 4 で原川がリードする。両チームとも速いボール回しから、カットイン、サイドシュートなどをねらうが、堅いディフェンスとゴールキーパーの好守により、1~2 点差の展開が続く。原川 5 番伊藤の退場を機に、前半 15 分過ぎ、氷見北部は 5 番田嶋のサイドシュートでついに逆転する。氷見北部はその後、1 番山田の好セーブから、6 番池森のポストシュート、9 番森(優)のカットインシュートなどで差を広げ、前半は 14 対 10、氷見北部 4 点のリードで折り返した。

後半に入っても、原川は、7 番田上のポストシュートなどで得点するものの前半の流れを変えられず、後半 8 分までに 6 点まで差を広げられる。さらに、氷見北部の堅い守りとゴールキーパーの再三の好守に阻まれ、8 分間以上の無得点が

続いた。その間、氷見北部は、8 番高木の速攻など 7 得点をあげ、着実に点差を広げた。

結局、30 対 18 で氷見北部が初の決勝に駒を進めた。

光陽 22 (9-12、13-15) 27 神森

開始直後、硬さの目立つ光陽に対して、神森は 5 番末吉の 2 連続シュート、パスカット、ルーズボールからの連続速攻で 4 対 0 とリードした。光陽はすかさずタイムアウトをとり、立て直しを図るが、リズムがつかめず前半 9 分で 8 対 1 と大きく引き離された。その後、神森にパスミスが続き、それに対して足が動き始めた光陽は、9 番木村、5 番奥村、3 番田中らの連続得点で 9 対 7 の 2 点差まで詰め寄るが、お互い譲らず、前半を 12 対 9 の神森リードで折り返した。

後半、光陽は 3 番田中の 2 連続サイドシュートで 12 対 11 と 1 点差に詰め寄るが、神森ゴールキーパー 1 番保田の好セーブに阻まれ、さらには神森の絶妙なパスワークからの攻撃を守れず、15 対 11 と点差が広がった。光陽は途中 2 名の退場者を出しながらも何とかしのぎ、終盤につなげようとしたが、最後まで足を動かし続けた神森が得点を重ね、決勝進出を手にした。

▼決勝

氷見北部 20 (8-12、12-11) 23 神森

前半立ち上がりから 15 分過ぎまで氷見北部は速いパス回しから 6 番池森のカットインシュート、4 番森彩華のみドルシュート、神森は遠い間合いから走り込んでの 15 番末吉、11 番大城のみドルシュートなどで得点を重ね、お互いに主導権を譲らない。15 分過ぎに神森は 6-0 ディフェンスから 5-1 ディフェンスにシステムを変えたことで、相手のパスのインターセプトを狙った。パスカットを得点につなげた神森が一気に均衡を抜け出し、4 点のリードで前半を折り返した。

後半に入り、神森はロングパスで氷見北部ディフェンスを左右に揺さぶり、15 番末吉の巧みなポストパスや自らのみドルシュートで得点を重ねた。一時は 6 点まで開いた得点差を氷見北部は粘り強いディフェンスや 9 番森優稀のサイドシュート、4 番森彩華のみドルシュートで少しずつ点差をつめ追いついた。しかし、前半についた 4 点差は大きく、3 点差で逃げ切った神森が初優勝を飾った。



2点とも 写真提供…スポーツイベント社

日韓代表 国際交流 定期戦2009

日時：平成21年5月6日
会場：川崎市とどろきアリーナ



▶ 総評…………女子代表ヘッドコーチ 黄 慶泳

大会の事前準備として、ナショナルトレーニングセンターで2回に分けて合宿を行いました。1回目の強化合宿は（4月2日（木）－10日（金））、強化ポイントとして、①トータルフィットネスの強化（スピード&スタミナ）、②基本プレーの徹底、③基本戦術の確認を行い、2回目の強化合宿（5月1日（金）－5日（火））では、更に、①実戦練習の中で基本プレーの確認、②紅白ミニゲームを通して試合感覚確認を行いました。

大会の狙いとしては、戦う姿勢と勝利に対する執念の違いが試合の中で表れているのか、1時間トータルで戦えるフィットネスが韓国に負けないこと、相手の攻撃力を引き下げることなどを意思統一しました。

大会での成果として、新キャプテンを中心として世帯交代

を図りながら韓国戦を戦ってみて、チーム全員の戦う姿勢と勝利に対する執念が試合の中で変わりつつあるのが一番の収穫でした。又、1時間戦えるトータルフィットネスに関しては、前半10分から20分間の間に攻撃が行き詰まる展開となったが、その場面を守りから速攻の展開で勝ち試合が作れたのはスピードを生かしたい日本の良さを引き出せた局面だと思っています。相手の攻撃力の抑制では、27点で抑えたので、



KIRIN

スポーツの感動を、ありがとう!



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく、ほどほどに。

www.kirin.co.jp
キリンビール株式会社

数字の上では成功したと判断しています。

課題も多くありましたが、相手の守備態勢変化への対応力の強化、メンバー交代する時の明確な戦術の変化とチーム全員の意思統一が挙げられます。

最後に、今回の日本代表は世帯交代を進める中で新しい選手の登用もありましたが、韓国も今回の日韓戦で中間層の選手と若手の混合のこれからのチームでありました。結果に関しては喜んでいますが、韓国内と海外でプレーしている選手の中ではロンドンオリンピックまで活躍可能な優秀な選手が

何人かいます。今より強いチームであることは意識した中で強化を進めて行きたいと考えています。

今後の取り組みとしては、12月の世界選手権を当面の目標として強化活動を行う予定です。

明確な目標値を設定しながら体力強化を継続し、ヨーロッパ等の海外選手との戦いを準備する中で大型対策にポイントを置いて強化を進めて行きたいと考えています。

最後になりますが、関係各位には今後ともご支援ご声援頂きますようお願い申し上げます。

▶ 総評…………男子代表ヘッドコーチ 酒巻 清治



大会直前の強化合宿（5月1日～5日、ナショナルトレーニングセンター）を行いました。

体力面では、体重のコントロール、ウェイトトレーニング、持久力トレーニング、パワー系トレーニングを実施、又、技術面では、DFシステム（DFについてシステム上のルールとポジション別個人の役割）と、OF準備（相手

DFのウィークポイントを狙うための「キッカケ」の確認と継続的オフェンスを展開するための「個人の判断」を向上を図りました。

試合前のチェックポイントとして、ディフェンス面では、得点源であるラインプレーヤーに対する守り方、1：1の局面で基本姿勢を保つことによる短時間で失点するケースを失くすこと、9m付近からのシュートに対してGKとコンビネーションを図ること、チームディフェンスにおいて各ポジションでの「約束」を果たすことができるかとなりました。一方、オフェンス面では、攻守の切り替えがスムーズに行われかつ数的優位な状況を獲得しているケースでのゴールをゲッ

ト、各ポジションでの個人パフォーマンスがコンビネーションに活用されるか、ボールを保持しない選手が味方のパフォーマンスを利用できているかなどとしました。

結果としては大変残念な結果になってしまいましたが、韓国との「差」が顕著に現れました。現在進めている強化を経て個人のレベルアップを図り、海外テストマッチを繰り返し、来年2月の世界選手権予選に備えます。今回の対戦により韓国選手の個人レベルを推し量ることができ、強化の目安を得たことは大変有意義でありました。

大会後の課題としては、ディフェンス面では、ラインプレーヤーに対する守り方を改善しなければならないですが、現時点では「満点」ではないがより改善できる見通しが立ちました。更に、チームディフェンスにおける「約束事」を徹底する姿勢は見えてきたものの、結果として表現できていないケースもあり、今後も継続していくことを考えています。又、オフェンス面では、個人のパフォーマンスの発揮の仕方にバリエーションが少ないこと、相手DFに変化があった場合に対応するのに時間がかかりすぎたことが挙げられます。

最後に、今回の敗戦を受け入れハードな強化と向き合い、来年2月には長年の借りを返したいと考えています。簡単な道ではありませんが、各チーム、選手たちと力を合わせて挑みたいと思います。関係各位には今まで同様ご支援ご声援いただきますようお願い申し上げます。

50
WAKUNAGA
since 1955

滋養強壯 虚弱体質

肉体重労働・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患
・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

医薬品



医薬品





元気、やる気 笑顔、湧く。


 渡辺製薬株式会社 <http://www.wakunaga.co.jp>

お取扱い店のお問い合わせは **【TEL】0120-39-0971**
受付時間 月～金(祝日を除く)9:00～17:00(12:00～13:00を除く)